

# 建築論の問題群——自然

基調講演

入江正之 早稲田大学名誉教授  
建築家。建築作品「漱石山房記念館」、著書『アントニオ・ガウディ論』ほか多数。  
天空へのいざない、成長する樹木

発表

能作文徳 東京電機大学 「人新世」  
杉山真魚 岐阜大学 「グリーン」  
田路貴浩 京都大学 「ピュシス」

ディスカッション

コーディネーター 西村謙司 日本文理大学

コメント 水上優 兵庫県立大学  
山村健 早稲田大学

まとめ

藤原学 京都大学

二十世紀の建築論を振り返ってみると、「空間」「機能」「意味」「記号」「場所」「風景」「構築／脱構築」などたえず中心的なテーマがあった。これらのテーマのもとに活発な議論や批評が交わされ、新しい理論が登場し、新しい建築が生み出されてきた。ところが二十世紀が終わるとともに「歴史の終焉」が語られ、時代はイデオロギーから実用主義へと移り変わり、思想や批評は影を薄めつつあるように見える。しかし建築を取り巻く状況の大きな変化は、新たな建築論や建築批評の登場を必要としているのではないだろうか。すでにアクチュアルな課題を指し示すいくつかのキーワードが浮かび上がってきた。本連続研究会ではそうしたキーワードを毎回一つずつ取りあげながら討議する。今回は地球環境問題を見すえつつ、自然と建築の関係を考える。

2019年6月15日(土)

13:30-17:30

京都大学吉田キャンパス

百周年時計台記念館  
国際交流ホールⅢ

定員 : 50名(先着順)  
参加費 : 学生 500円  
          : 学生会員 1000円  
          : 一般 1500円

問い合わせ : 京都大学大学院田路研究室  
E-mail : tajilab.kyoto@gmail.com

主催 : 日本建築学会 建築論・建築意匠小委員会  
共催 : 日本建築学会 近畿支部 建築論部会